

「領主ヘロデの戸惑い」

2015年07月09日

ルカによる福音書9章7節～9節。ところで、領主ヘロデは、これらの出来事をすべて聞いて戸惑った。というのは、イエスについて、「ヨハネが死者の中から生き返ったのだ」と言う人もいれば、「エリヤが現れたのだ」と言う人もいて、更に、「だれか昔の預言者が生き返ったのだ」と言う人もいたからである。しかし、ヘロデは言った。「ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は。」そして、イエスに会ってみたいと思った。

主イエスの「神の国」の宣教は民衆の圧倒的な支持と尊敬を集めた。政治的、経済的、宗教的に抑圧、差別され、苦悩していた民衆は主イエスの慰めと励ましに満ちた言葉を聞き、病をいやされ、悪霊から解放されてユダヤの共同体に復帰でき、生きて働く神を知らされたからである。民衆は福音を体験し、生きる喜びを共有し合った。主イエスのうわさはユダヤだけでなく、異教の地まで広がった。

人々は主イエスに関して三つの評価をした。①「ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。」ヨハネは荒れ野に立ち、禁欲生活をしながら、真っ直ぐに神の裁きを告げ、罪の悔い改めの洗礼を受けることを激しく迫った。ヨハネの真実に打たれ、人々は競って洗礼を受けた。人々の心を神に向けさせ、主イエスの歩まれる道備えをした。ヨハネは主イエスに洗礼を授けた時、聖霊によって、主イエスは神の子であることを知らされた。メシア（キリスト）の到来を預言した旧約聖書の最後の預言者として、主イエスをキリストであると指差した。彼は、領主ヘロデの不義を断罪したため、投獄され、首をはねられ殉教した。ヨハネの生涯と死は民衆に絶大な尊崇の念を与えた。主イエスには、死者の中からヨハネが生き返って、その力が働いているのだと見られた。②「エリヤが現われたのだ。」エリヤはイスラエル人が最も尊敬する預言者であった。異教のバアルの神の預言者たちと争い、天から火を降らせ、ヤーウェの神こそが真の神であることを証明した旧約聖書を代表する預言者であった。主イエスには、このエリヤが現われ、力を発揮していると思われた。③「だれか昔の預言者が生き返ったのだ。」預言者は神の言葉を与え、これを民に告げる人である。神の言葉は人間の罪を弾罪する。そのため、預言者は迫害を受け殉教した人が多い。しかしだからこそ、預言者たちは尊敬を受けたのである。主イエスは、そのような預言者が生き返り、働いているのだと見られた。

主イエスに対する高い評価を聞いて、領主ヘロデは戸惑った。殊に「ヨハネが死者の中から生き返ったのだ」という言葉に心が揺れた。だから「ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は」と口走った。ヘロデは自分の不義を責められ、怒って投獄した。しかし、マルコ福音書6章20節に「ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである」と記されている。ところが、妻になったヘロディアの策略にかかり、心ならずも、ヨハネの首をはねた。主イエスはヨハネの生き返りであると聞いて、ヘロデは良心に咎めを感じたのである。

彼は主イエスに会ってみたいと思った。ルカ福音書は、ローマの総督ピラトが主イエスを尋問した後、ヘロデのところへ送り、二人は会っている。この時、ヘロデは主イエスを嘲り、侮辱したと書かれている。権力者は反省や懺悔を表すことはないようだ。